

vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

11

NOVEMBER
2008

CONTENTS

水戸室内管弦楽団 第74回定期演奏会(2).....	1~2
SELF PORTRAIT 宇野陽子.....	2
最近の公演から.....	3
速達 プチ情報.....	3
インフォメーション.....	4



写真上:水戸室内管弦楽団
第68回定期演奏会より
写真左:ナタリー・シュトゥッツマン

ナタリー・シュトゥッツマン、独占インタビュー！

● 11/8(土)、9(日)水戸室内管弦楽団 第74回定期演奏会

「バロック音楽の愉しみ～ヴィヴァルディとバッハ～」と題し、バロックの2大巨匠、ヴィヴァルディとJ.S.バッハの名作をお楽しみいただく水戸室内管弦楽団第74回定期演奏会。中でも最も注目される曲目が、現代を代表するコントラルト歌手、ナタリー・シュトゥッツマンを独唱に迎えてのヴィヴァルディ〈スターバト・マーテル〉です。

1997年6月の第30回定期演奏会(ラヴェル〈博物誌〉)、2002年11月の第52回定期演奏会(ヴァーグナー〈ヴェーゼンドク歌曲集〉)、2004年5月のリサイタル(シューベルト〈冬の旅〉)に続き、4度目の水戸芸術館登場となるシュトゥッツマン。その低く艶やかに響く色彩感豊かな歌声、まさに多彩な表現力、そして知的な解釈は、私たちに忘れがたい印象を残してくれました。

今回は、水戸では初めての「バロックもの」になります。そして、シュトゥッツマン自身が指揮者の代わりとなり、全体的な音楽作りをリードする役割をも担います。どのような音楽を聴かせてくれるのか、今から楽しみでなりません。

水戸室内管弦楽団のこと、曲目のこと、音楽作りのこと、「コントラルト」のことなど、vivoのために独占インタビューを企画し、シュトゥッツマンにお聞きしました。

《関根》

—— シトゥッツマンさん、再三にわたって水戸室内管弦楽団の定期演奏会に独唱者としてお招きできますことを大変光栄に思います。今回の演奏会に向けての率直なお気持ちを、まずお聞かせください。シュトゥッツマン:驚嘆すべき素晴らしい水戸室内管弦楽団と回を重ねて共演できますことは、私にとっても大変光栄なことです。今から本当に楽しみで仕方ありません。もう11月まで待ちきれない!というのが本当の気持ちなのです。

—— シトゥッツマンさんは、1997年と2002年の2回、水戸室内管弦楽団と共演なさっています。その時のことで、何か印象的だったことはありますか？

シュトゥッツマン:私は出会った初日のことをとてもよく覚えています。水戸室内管弦楽団がきわめて特別なオーケストラだと分かったのです。私はマエストロ小澤征爾の指揮のもとでたくさん歌って来ましたが、そこで友人となった日本人演奏家の何人かが水戸室内管弦楽団の中に見い出されたことも大変幸せでした。

常に言えることですが、人間として、水戸室内管弦楽団のメンバーのような人たちと一緒に音楽をつくりあげていくことは、ひじょうに貴重なことです。リハーサル、演奏会の間中、ずっと集中力が高く、暖かい感情が私に強く訴えかけて来ました。

それと、この街の美味しい和食も忘れることはできません!

—— 水戸室内管弦楽団との共演のほか、2004年には水戸芸術館でシューベルト〈冬の旅〉のリサイタルも行っています。水戸芸術館コンサートホールATMや水戸の聴衆についての印象をお聞かせください。

シュトゥッツマン:私は水戸芸術館のコンサートホールが大好きです。室内楽に完璧なサイズだと思います。大きすぎもせず、小さすぎもせず、大変クリアな良い響きを持っています。水戸の聴衆の皆様は、音楽そしてアーティストに対してとても暖かく、敬意をもって接してくれるように感じました。とても感謝しています。

—— 今回の曲目、ヴィヴァルディの〈スターバト・マーテル〉は、シュトゥッツマンさんにとってどのような価値を持つ作品ですか？ また、この作品の聴きどころは？

シュトゥッツマン:ヴィヴァルディの宗教曲は、彼が書いた作品の中で最良の部類に属すると私は考えています。〈スターバト・マーテル〉は私にとって大変価値のある作品です。感動的で、奥深く、豊かな表現に満ちていて、聴く人々の目からは涙がこぼれるのではないのでしょうか。私はこの作品を20年にわたって歌っていますが、毎回、同じよこびがあります。

〈スターバト・マーテル〉は、非常に内面的な、痛切な作品です。名人芸的なものは一切ありません! あるのはただ深さだけです。



写真:ナタリー・シュトゥッツマン
コントラルト・リサイタル(2004年5月)より



写真:宇野陽子

"Stabat Mater dolorosa juxta crucem lacrimosa dum pendebat fillius" (御母は悲しみに暮れ、涙にむせびて御子のかかりし、十字架のもとに佇んでいた)

聖母マリアが絶望的な状況に涙し、息子イエスが十字架に処せられるのを見つめる、息を呑むような表現がこの作品にはあります。

ここにあるのは、すべて感情のことです。ですから、音楽を分析するのではなく、音楽を感じるように、この作品と接してみてください。

演奏を準備するための分析は音楽家の仕事であって、聴衆の皆様の仕事ではありません。

——今回はシュトゥッツマンさんご自身がディレクションを務めることも話題になっています。どのようなことに気を配って音楽作りを進めていくのですか。

シュトゥッツマン:私のすべての心とすべての魂を傾けます。ともに音楽を愛する室内楽グループの仲間として、音楽を作っていくつもりです。バロック音楽には、演奏者の解釈を必要とする想像性に富ん

だ自由さがありますが、そのバロック音楽の様式における私の経験のすべてを投入したいとも考えています。フレーズの方法、音色の選び方など、すべてが真の解釈を形作っていくのです。

バロック時代、作曲家は演奏家の解釈に100%の信頼をおいていました。幻想性、表現力、想像力を広げてくれるような解釈というものを、作曲家は期待していました。それ故、スコアには解釈やニュアンスの細かい指示がほとんど記されていないのです…。それは音楽をとてエキサイティングなものにしてくれるでしょうね。

——シュトゥッツマンさんの豊かで深々とした声は本当に素晴らしく、多くの人が魅了されています。一般的なアルトではなく、あえてコントラルトとされていますが…?

シュトゥッツマン:コントラルトは、単なるアルトよりさらに低く、はるかにドラマティックな声の色彩を持っています。この〈スターバト・マーテル〉は、信じられ

ないほどに低い音域で書かれています。ですので、コントラルトでも最も低い声域をこの作品の中に聴くことができるでしょう。

——最後に、水戸の聴衆に向けてご自由にメッセージをどうぞ。

シュトゥッツマン:機会が訪れるたびに水戸に戻って来られることは何て幸せなのでしょう! 水戸はまるで「故郷」のように感じられます。

聴衆の皆様が、私たちを見守ってください、感動し、音楽の信じられないような美しさを発見してください、そのことを切に望んでいます。

(協力: 棍本音楽事務所)

SELF

PORTRAIT

水戸出身の新進チェリストの颯爽たるリサイタル

■ 11/30(日)
宇野陽子 チェロ・リサイタル

今、私の手元に思い出深い2冊のプログラムがある。水戸芸術館の、少し細長い形をしたあれだ。1つはロストロポーヴィチのリサイタルのもの。1992年11月4日。この日、私は長い間習い続けていたヴァイオリンをやめ、チェロを選ぶことを決めた。あれから十数年…チェロ弾きとしてその舞台に立つ機会を与えていただき、感謝の気持ちでいっぱいだ。

今回のリサイタルではまず、個人的にチクルスで取

り組んでいるベートーヴェンのソナタの中から大好きな第2番。ベートーヴェンの作品は、触れるたびに自らの音楽への愛を再確認させてくれる。厳しくも優しい、深く温かなメッセージに溢れた美しい曲だ。

次はショスタコーヴィチのソナタ。この曲を初めて実演で聴いたのは1995年10月15日。(そう、もう1つのプログラムはこのリング・ソロイストの演奏会の時のものだ。) ヘルガメンシコフの演奏があまりに強烈で忘れられない。当時一緒に東京から日帰りツアーをしたのは、同じ寮に住んでいた同級生・ヴァイオリニストの井上静香(水戸室内管弦楽団への客演でもおなじみ)で、しばらくはショスタコと言えばベルガメ、ベルガメと言えばショスタコというくらい話題に上った。以来お気に入りとなったこの曲を、今回のリサイタルで弾けるのは、とても楽しみである。

そしてメンデルスゾーンのソナタ第2番。元来moll(短調)好きの私だが、ロンドン留学で実際に

「ヨーロッパの冬」を体験し、人々の春への渴望とやがて訪れる春の美しさ、そして太陽の有難みを実感した所為か、少し嗜好が変わったようだ。この曲の出だしは、交響曲〈イタリア〉を彷彿とさせる、明るさや喜びに満ち溢れている。最後は輝かしいdur(長調)で華やかに終えることにした。

プログラム全体を通して、曲ごとに違う“色”を楽しんでいただけたらと思う。

ピアノは学生時代からお世話になっている諸田由里子さん。私は彼女のピアノが大好きなので、今回一緒にできるのがとても嬉しく、今から楽しみだ。

ロストロもベルガメも、残念ながらもうこの世にはいない。が、その演奏は未だ忘れられるものではない。そういう素敵な出会いの場を提供し続けてくださっている水戸芸術館に、改めて敬意を表したい。

宇野陽子

最近の公演から

SEPTEMBER



1



2



3



4



5



6

ミト・デラルコ 第11回演奏会 (9月7日)

ミト・デラルコ第11回演奏会は、シューベルト:弦楽四重奏曲 第12番 ハ短調 D.703〈四重奏断章〉、メンデルスゾーン:弦楽四重奏曲 第2番 イ短調 作品13、シューベルト:弦楽四重奏曲 第13番 イ短調 D.804〈ロザムンデ〉の3曲という、初期ロマン派の弦楽四重奏曲3曲によるプログラム。メンバーは4人ともロマン派の演奏には熟達しているが、ピリオド楽器の弦楽四重奏団としてこれらのレパートリーに臨むことは、彼らにとっても新鮮な発見の連続のようだった。毎日長時間にわたってリハーサルが行われるが、休憩のたびに、〈断章〉が未完に終わったのはなぜか、18歳のメンデルスゾーンがいかに意欲に満ちてベートーヴェンの先へと行こうとしていたか、あるいは〈ロザムンデ〉のほとんど霊的な音楽の力についてなど、熱心に議論がたたかわされた。やがて、バロックからハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンと時代を下っていくその先に聴こえてくる、シューベルトとメンデルスゾーンの「新しさ」が、4人のアンサンブルを通じて姿を現していった。アンコールは〈断章〉の、42小節だけ書かれて未完に終わった第2楽章を、四声部が完成している部分まで演奏。終演後にはサイン会を実施した。なお、9月5日(金)には、所沢市民文化センター MUSEで、2006年以来2年ぶり2度目となる館外公演が行われた。演奏会の詳しい内容については担当者ブログ <http://www.arttowermito.or.jp/blog/yazawa> の「ミト・デラルコ」の項をご覧ください。 《矢澤》

アンケートから ●オリジナル楽器でロマン派のクワルテットを弾いていただけると新しい発見があります(水戸市:A.U.さん) ●シューベルトの器楽曲が、これほど素晴らしいとは!(笠間市:Y.M.さん) ●メンデルスゾーンのSQ最高に素晴らしかった。(中略)水戸でこんな素晴らしい演奏会が聴けてうれしいです(土浦市:K.K.さん) ●ロザムンデを演奏するメンバーのハーモニーを十分楽しんでいる様子が伝わってきて、こちらも幸福感に癒されました(ひたちなか市:A.F.さん) ●シューベルトのSQ12の第二楽章(未完)のアンコールはうれしかったです(無記名の方) ●今までロマン派の音楽はあまり好きではなかったが、今回の演奏を聴いて少し興味が出てきました(那珂市:Y.T.さん)

1~4. ミト・デラルコ 第11回演奏会

5~6. アンサンブルの愉しみ 城戸範子・城戸春子・植村理一 弦楽トリオ

水戸芸術館高校生音楽講座2008 [第2期]

第3回(9月12日)

「ベートーヴェンを追いかける」シリーズ第3回は「超越篇」と題し、晩年のベートーヴェンの音楽に焦点を当てた。ウィーン会議以降の逼塞したヨーロッパの中で、ベートーヴェンはどのような音楽の解を求めたのか。〈ヴェリントンの勝利〉(第9)〈大フーガ〉〈ミサ・ソレムニス〉などの作品を聴きながら考えた。今回も定員を超える高校生が集まり、終了後には熱い感想が多く寄せられた。10月以降の4回目からも途中参加可能、お待ちしております。講座の詳しい状況は担当者ブログ <http://www.arttowermito.or.jp/blog/yazawa> の「高校生音楽講座2008」の項をどうぞ。 《矢澤》

アンサンブルの愉しみ~ヴァイオリン(城戸範子)、ヴィオラ(植村理一)、チェロ(城戸春子)による弦楽の響きと調和の世界~(9月15日)

水戸を拠点に活動を行っている城戸範子さん(ヴァイオリン)とその娘で水戸第三高等学校で教鞭を執る春子さん(チェロ)、そしてフィレンツェの弦楽四重奏団などで活動してきた植村理一さん(チェロ)による弦楽トリオの演奏会。モーツァルトの〈ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲 K.423〉で颯爽と幕を開け、続いて母子の共演で息の合ったコダーイの〈ヴァイオリンとチェロのための二重奏曲〉が演奏された。そして、後半に演奏されたのが、バッハの〈ゴルトベルク変奏曲〉。シトコヴェツキが編曲した弦楽三重奏版が取り上げられた。3人の演奏家は、色彩豊かに、ニュアンスに富んだ演奏を披露した。 《中村》

アンケートから ●前半のモーツァルトもコダーイもそれぞれお二人の息があっっていて素晴らしいアンサンブルでした。しかし、全てが終わってみると、その前半も後半バッハ(〈ゴルトベルク変奏曲〉)の第29変奏までもが、(同作品の)最後のアリアのために準備されていたかのように感じられました。それだけに全てが終わったときの会場全体の感動が伝わってきて鳥肌が立つ思いでした。(T.H.さん) ●バッハはこんなにも広く深く、堅固で柔軟で、楽しく哀しく、しかも厳密自由な素晴らしくも多様な魅力にあふれているのかと改めて感銘することのできた演奏でした。(水戸市:G.T.さん)



●小学館から発売されている『林光の音楽』は、現代日本を代表する作曲家、林光氏の主要作品を集めた画期的なCDブックですが、その中に、水戸室内

管弦楽団が委嘱したヴィオラ協奏曲(悲歌)の録音が収録されました。1995年6月24日、MCO第22回定期演奏会での初演ライブ(独奏:今井信子)という貴重な録音です。作曲者による解説や、初演者、今井信子へのインタビューも掲載されています。 ●専属楽団メンバーの新録音をいくつかご紹介。まずMCOメンバーのヴァイオリニスト、久保田 巧は、パウル・グルダとの共演でブラームスのヴァイオリン・ソナタ全集を発表(EXTON OVCL-00343)。 ●ATMアンサンブルメンバーのヴァイオリニスト、小林美恵は、パスカル・ロ

ジェとの共演でラヴェルのヴァイオリン・ソナタ集をまもなくリリース(10月発売予定、EXTON番号未定[9月24日現在])。 ●ミト・デラルコメンバーのヴァイオリニスト神戸 亮は、復元楽器「ヴィオロンチェロ・ダ・ス・パツァ」を用いたJ.S.バッハ:無伴奏チェロ組曲全曲録音を発表(コロムビア/DENON COGQ 32~3)。 ●同じくミト・デラルコメンバーのチェリスト鈴木秀美は平井千絵との共演でショパン:チェロとピアノのための作品集をまもなくリリース(BMG/ドイツ・ハルモニオ・ムンディBVCD-31020、10月22日発売予定)。

information

■チケットに関するお問い合わせ

…水戸芸術館チケット予約センター/029-231-8000

営業時間 9:30～18:00(月曜休館)

■公演内容や企画に関するお問い合わせ

…水戸芸術館音楽部門/029-227-8118

■【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

■茨城放送「タッチ・ミー・イン・ザ・モーニング」内「タッチ・ザ・クラシック」

毎週水曜日・朝6:50頃から約10分間

水戸周辺 1197KHz、土浦周辺 1458KHz

チケット・インフォメーション

〈10月25日(土)発売分〉

◎ニュー・イヤール・コンサート2009

1/5(月)18:00開演 料金(全席指定):S席¥5,000 A席¥4,000 B席¥3,000

◎モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会(全6回) 演奏とお話:野平一郎

第3回:1/23(金)18:30開演 料金(全席指定):¥3,000

第4回:3/6(金)18:30開演 料金(全席指定):¥2,500

第3回と第4回の通し券¥4,500(※水戸芸術館のみの取り扱いです)

◎井上修 ピアノ・リサイタル

1/25(日)15:00開演 料金(全席自由):一般¥3,000 学生(大学生以下)¥1,500

※ニュー・イヤール・コンサート2009には、10月21日(火)より友の会維持会員、10月22日(水)より友の会一般会員の先行電話予約がありますので、10月25日(土)の一般発売の時点で、券種によってはお客様のご希望に添えない場合があります。予めご了承ください。

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

◎水戸室内管弦楽団第74回定期演奏会…11/8(土) 中央×、左右・裏○

11/9(日) 中央×、左右・裏○

◎宇野陽子 チェロ・リサイタル…11/30(日) 自由席○

◎中村佳代 ピアノ・リサイタル…12/7(日) 自由席○

◎クリスマス・プレゼント・コンサート2008…12/23(火・祝) 中央×、左右・裏○

※9/24(水)現在の状況です。

※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。

※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な11月のスケジュール

コンサートホール ATM

■水戸室内管弦楽団第74回定期演奏会

バロックの愉しみ～ヴィヴァルディとバッハ～

11/8(土)18:30開演、11/9(日)14:00開演

料金(全席指定):S席¥5,500 A席¥4,500 B席¥3,500

■宇野陽子 チェロ・リサイタル

11/30(日)15:00開演

料金(全席自由):[前売]一般¥2,000 学生¥1,500 [当日]一般¥2,500

学生¥2,000

エントランスホール

■パイプオルガン プロムナード・コンサート

11月:1日(土)、15日(土)、22日(土)、29日(土)

開演時間:12:00/13:30(2回公演) 入場無料 ※演奏は各回20分程度です。

ACM劇場

〈日本の現代ダンス・フェスティバル〉LIFE with DANCE 2008

□ Program A

Dance Theatre LUDENS 『Against Newton』

ACM DANCE 『DOLLS』

若生祥文 『な・が・れ』

11/1(土)19:00開演、11/2(日)14:00開演

□ Program B

萩谷京子 DANCE EXPERIMENT 『空の章～隻翼の天使たち～』

11/8(土)16:00開演

□ Program C

Monochrome Circus 『きざし』 『最後の微笑み』

11/9(日)18:00開演

料金(各プログラム/全席指定):一般¥2,500 学生¥1,500

プログラムA・B・C通し券(限定50席/一般のみ)¥6,000

■『サド侯爵夫人』

11/23(日)14:00開演 料金(全席指定):A席¥5,500 B席¥3,500

■萬狂言水戸公演2008 『月見座頭』『髭髯』

11/30(日)16:00開演

(野村万蔵師によるプレ・パフォーマンス・トークあり 14:30～15:00)

料金(全席指定):S席¥4,000 A席¥3,000 B席¥2,000

団体(10名以上/S席のみ)¥3,600

現代美術センター

■日常の喜び

10/25(土)～2009年1/18(日) 9:30～18:00(入場は17:30まで)

休館日:月曜日 ただし、11/3、11/24(月・祝)は開館、翌11/4、11/25(火)は休館。

料金:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600

中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付き添い1名は無料

茨城の主な11月の演奏会 ※有料公演のみ

◆佐川文庫 TEL/029(309)5020

■～若手ピアニストシリーズ～ 加藤大樹 ピアノ・リサイタル

11/15(土)18:00開演

◆常陽藝文センター TEL/029(231)6611

■市毛恵子 ピアノチャリティコンサート 11/16(日)14:30開演

◆茨城県民文化センター TEL/029(241)1166

■第23回国民文化祭・いばらき2008 オーケストラの祭典

□ジュニアのステージ 指揮:羽部真紀子

□一般のステージ 指揮:山下一史

□大学生のステージ 指揮:松尾葉子

11/9(日)13:30開演

■キエフ・オペラ「トゥーランドット」 11/18(火)18:30開演

◆水戸市民会館 TEL/029(224)7521

■班目加奈 トランペットリサイタル

11/3(月・祝)14:00開演

◆ひたちなか市文化会館 TEL/029(275)1122

■第23回国民文化祭・いばらき2008 大正琴の祭典 11/9(日)10:00開演

■財団法人日本太鼓連盟 茨城県支部

第5回日本太鼓ジュニアコンクール茨城県予選会

11/29(土)13:00開演 大ホールにて

(問)日本太鼓連盟 茨城県支部(笹) TEL/0296(24)1428

■中村俊三 ギター・リサイタル 11/29(土)18:00開演 小ホールにて

(問)中村ギター教室 TEL/029(252)8296

■水戸パッサコレギウム 第19回定期演奏会 11/30(日)14:00開演

(問)水戸パッサコレギウム事務局(菅野) TEL/029(309)5036

◆日立シビックセンター TEL/0294(24)7711

■第23回国民文化祭・いばらき2008 ひたち野外オペラ『アイダ』

11/1(土)16:30開演 会場:日立新都市広場

■日立シビックセンター音楽シリーズ2008 第18回ひたち室内楽フェスティバル

アンサンブルの祭典2008 コンサート 11/30(日)13:00開演

◆ノバホール TEL/029(852)5881

■第24回つくば国際音楽祭 つくばモーツァルト・フェスティバル

□folkハルト・シュタイデ & ローランド・パティック デュオ・リサイタル

11/12(水)19:00開演

□ローランド・パティック ピアノ・リサイタル 11/13(木)19:00開演

□folkハルト・シュタイデ ヴァイオリン・リサイタル 11/14(金)19:00開演

□folkハルト・シュタイデ &

ローランド・パティック & 東京ハルモニア室内オーケストラ

11/15(土)15:00開演

□ローランド・パティック ジャズトリオ with 高樹レイ(ヴォーカル)

11/16(日)15:00開演

■「アパートメントハウス1776/ジョン・ケージ」

=アルディッティ 弦楽四重奏団 × 白井 剛 11/26(水)19:00開演

水戸芸術館音楽紙『ヴィーヴォ』 2008年11月発行 第137号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順):佐川真美 関根哲也 中嶋美智代 中村 晃

矢澤孝樹(編集長)

DTP/村田征司

印刷所/株式会社あけぼの印刷社

次号は…

2008年のフィナーレを飾る音楽会の数々!